クローズアップ 飯盛城 2018

―調査報告会資料集―

大東市教育委員会　大東市立歴史民俗資料館
四條畷市教育委員会　四條畷市立歴史民俗資料館

クローズアップ　飯盛城　2018

◆ プログラム ◆

日時：平成30年7月1日(日)

午後1時～午後4時（受付午後0時30分）

会場　大東市立歴史とスポーツふれあいセンター四条体育館

日程

13:00～13:05	開会挨拶	田川愛実（大東市教育委員会）
13:05～13:15	「飯盛城跡 国史跡の指定に向けて」	黒田 淳（大東市教育委員会）
13:15～13:55	報告1 「発掘調査から飯盛城を探る－『千畳敷曲輪』『南丸』、石垣の調査－」	李 聖子（大東市教育委員会）
13:55～14:35	報告2 「飯盛城『御体塚』を掘る－『御体塚曲輪』、石垣の調査－」	實盛良彦（四條畷市教育委員会）
14:35～14:45	休 憩	
14:45～15:30	講 演 「飯盛城と私部城－山城から平城へ－」	吉田知史（交野市教育委員会）
15:30～15:55	討 論	
	コーディネーター	野島 稔(四條畷市立歴史民俗資料館館長)
	パネラー	黒田 淳　李 聖子　實盛良彦　吉田知史
15:55	閉会挨拶	神本かおり(四條畷市教育委員会)
16:00	終 了	

5　曲輪90と曲輪91

1 分布調査 桜池南方遺構

2 分布調査 竪掘

3 分布調査 南丸畝状竪堀群

4 分布調査 Ⅲ郭 石垣

飯盛城跡　国史跡の指定に向けて

大東市教育委員会　黒田　淳

はじめに

大東市・四條畷市の市街地からいつも目にすることのできる飯盛山は、昔から市民に親しまれてきた存在であったと思います。標高は314mで、麓のＪＲ野崎駅や四条畷駅からでも気軽に登ることができ、休日ともなると、多くの人が訪れています。

飯盛城はこの山に築かれた戦国時代の山城です。織田信長より先んじて、京都を抑え、畿内一円を支配した三好長慶が永禄３（1560）年に入城し、ここが政治の中心となりました。

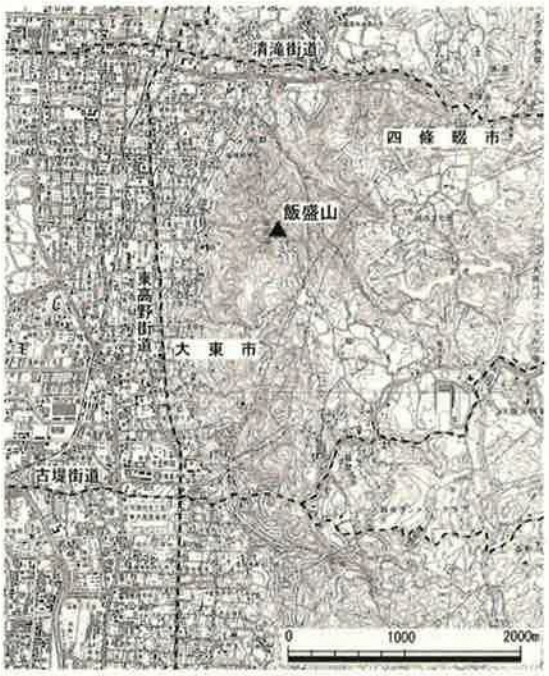


図１　飯盛山位置図

図２　飯盛山遠景（北西より）

飯盛城の構造

飯盛城の規模は東西約400m、南北約650mと考えられており、大阪府下最大の山城です。飯盛城が築かれた飯盛山は、南北に走る稜線は痩せ尾根で、西側は急峻な尾根が幾筋も張り出し、東側は室池を水源とする権現川に刻まれた深い谷で遮られ、北端は交野台地に向かって細く突き出し急激に高度を下げています。山頂からの眺望はすぐれ、大阪平野全体はもちろんのこと、遠く京都方面まで一望することができます。西側山麓には、河内平野を南北に縦貫する東高野街道が走り、北側は清滝街道、南側は中垣内越え（古堤街道）の、河内と大和を結ぶ街道が走っています。このように、飯盛城は自然の要害に恵まれ、交通の要衝に位置しているといえます。

城の遺構としては、大小90余りの曲輪（平坦地）が広がり、竪掘り、堀切、土塁、石垣が残っています。城域の南約３分の２が大東市で、城の南からの入り口にあたる虎口、城中最大の規模を持つ曲輪である千畳敷曲輪、最高所の高櫓曲輪、展望台のある曲輪と尾根上に曲輪が北に続き、四條畷市域に入ると三

本松曲輪、御体塚曲輪、北の丸曲輪へと続いています。そしてそれぞれの曲輪から東西に派生する尾根上にも小曲輪が連続して配置されています。石垣は現在確認されているものでは、東側斜面に多く残っています。

飯盛城の評価

飯盛城は、三好長慶の居城であったことで、関連する歴史的な出来事が文献に記録されています。

飯盛城において、長慶が連歌の会を催したこと、当時キリスト教布教のため日本に来ていた宣教師らが頻繁に訪れていたこと、その中の一人ルイス・フロイスが記した記録には、飯盛城において長慶の家臣が洗礼を受けたことなどの記録が残っています。

また、城郭の規模、構造の面では、城郭に石垣が本格的に採り入れられる前段階に石垣を多く用いた山城として評価されています。

国史跡指定に向けて

このように、飯盛城は我が国の歴史を理解するうえで、重要な遺跡として位置づけられ、文化財保護法で定義される国の史跡にふさわしい価値をもつものとして、大東市と四條畷市では飯盛城の国史跡指定を目指し、平成27年度より本格的な調査を開始しています。

平成28年度は両市で航空レーザー測量を実施し、赤色立体地図を作成して、飯盛城の地形の把握に努めました。大東市では千畳敷曲輪の発掘調査を実施し、礎石が発見され、土師器皿や茶道具のひとつである風炉と呼ばれる破片が出土しています。四條畷市では御体塚曲輪の石垣の測量図化を行い、石垣の近くから瓦や土器が見つかっています。

平成29年度は、大東市では引き続き千畳敷曲輪の他、南丸において発掘調査を実施しました。千畳敷曲輪では、曲輪を造成するため大規模な土木工事が行われていたことがわかり、南丸では土壁が出土したことから、土壁を使用した建物が建てられていたことがわかりました。また、東側のハイキング道沿いに残る石垣の測量図化も実施しています。四條畷市では、御体塚曲輪で石垣の測量図化と発掘調査を実施しています。発掘調査では、瓦・磚（レンガ）が出土し、瓦葺の建物が建てられていた可能性が出てきました。

おわりに

文化財は特定の研究者のものではなく、広く国民の共有の財産と位置付けられています。

大東市と四條畷市では、この飯盛城を国の史跡にすることで保存・活用し、未来へ残していきたいと考えています。

本日の報告会で、飯盛城の歴史的価値や重要性について、少しでも多くの方に知っていただき、国史跡指定についてご理解をいただければ幸いです。

発掘調査から飯盛城を探る

ー『千畳敷曲輪』『南丸』、石垣の調査ー

大東市教育委員会　李 聖子

1．はじめに

・平成24年度～　　城域の範囲や曲輪・石垣・土塁・堀切・竪堀などの数・形・規模と、それらの遺構の広がり具合を確認するために分布調査を実施、継続。

・平成28・29年度　　千畳敷と呼ばれるⅧ郭と南丸と呼ばれるⅨ郭（以下、千畳敷曲輪・南丸と表記）で発掘調査。平成28年度に航空レーザー測量、赤色立体地図を作成。平成29年度に本郭Ⅱ東側の腰曲輪の石垣を測量調査。

・平成30年度（今年度）　　3年に及ぶ調査計画の最終年度。千畳敷曲輪と虎口の発掘調査、虎口に築かれた石垣の測量調査を予定。

2．千畳敷曲輪と南丸の発掘調査

■飯盛城跡の構造　　南北尾根に一直線上に配した主要な曲輪群は北側と南側に分けられる（中井 均「飯盛城」『近畿の城郭』 中井 均監修 城郭談話会編 2015）。

・北側曲輪群　　城の主郭に相当する高櫓郭Ⅰ、本郭Ⅱ・Ⅲ郭・Ⅳ郭・御体塚丸Ⅴ郭・三本松丸Ⅵ郭・Ⅶ郭から構成される。防御空間。

・南側曲輪群　　千畳敷曲輪、南丸から構成される。千畳敷曲輪は名称のとおり、南方に向かって大きく逆「Y字」状に広がる曲輪で、南側に南丸が隣接。居住空間として使われていた。

発掘調査は南側曲輪群の千畳敷曲輪下段の曲輪と南丸で行った(図1・2・3)。

(1) 遺構からわかること

■曲輪の造成工事について

・千畳敷曲輪の下段　北辺約17m、南辺約50m、南北間の長さ約40mの台形(約1340㎡)。飯盛城跡では最大級の曲輪。広大な曲輪を造成するために、切土と盛土による大土木工事が行われた。尾根西側を岩盤まで削り、削り取った土を北東側斜面に運び、盛土をして平坦面を広げている。盛土の厚さは深い所で約2mを測る。斜面に0.1m～0.2m幅で平らに薄く10数回敷き均している（図4・5)。

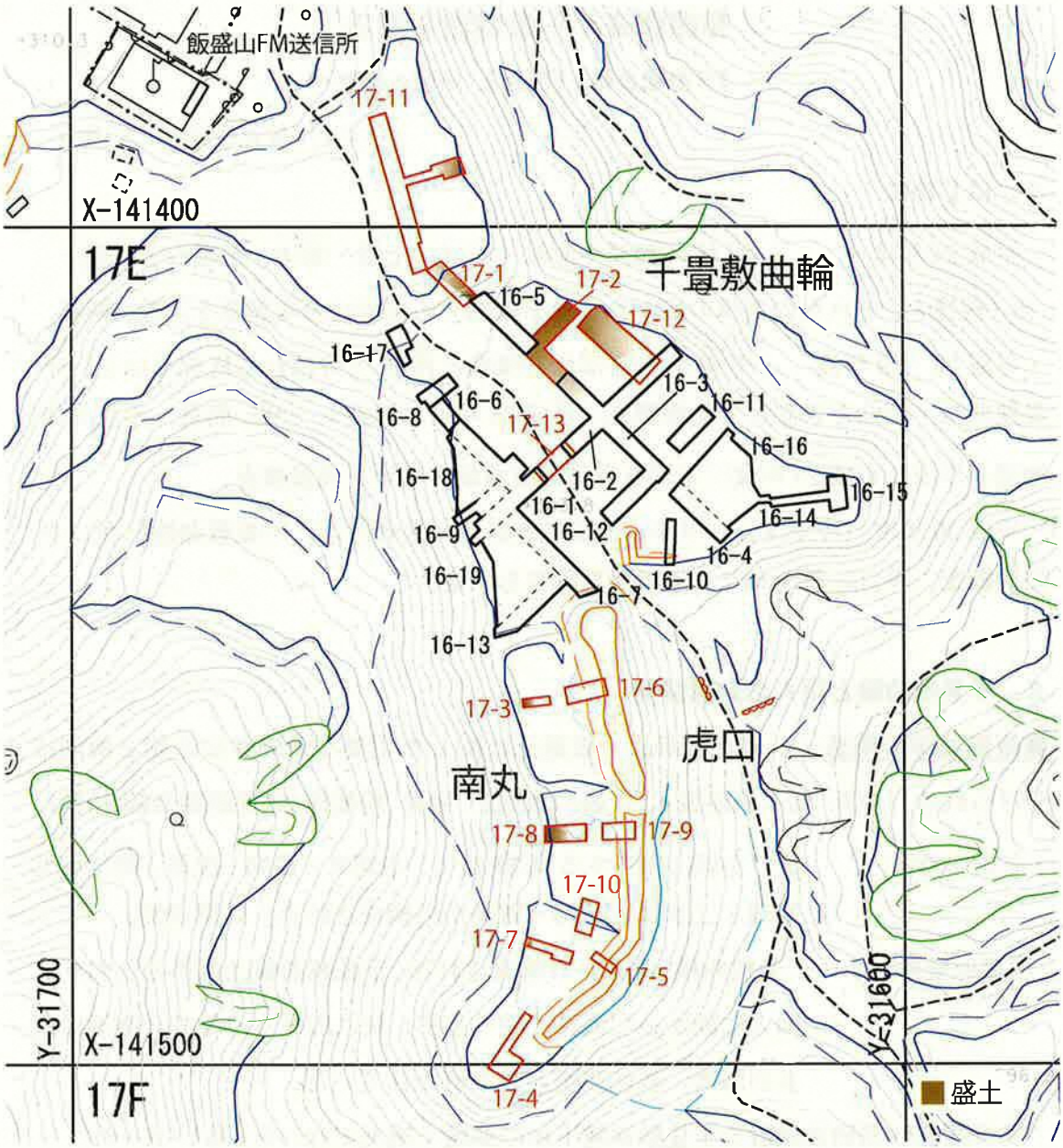


図１　平成 28 年度・平成 29 年度トレンチ配置図
（黒：平成 28 年度調査トレンチ　赤：平成 29 年度調査トレンチ 図面にはトレンチ番号・数字を表記）

図２　千畳敷曲輪　第 16-2 トレンチ（東西）・
第 16-3 トレンチ（南北）北から

図３　南丸　調査地全景全景 北から
（中央第 17-10 トレンチ、右第 17-7 トレンチ、左第 17-5 トレンチ）

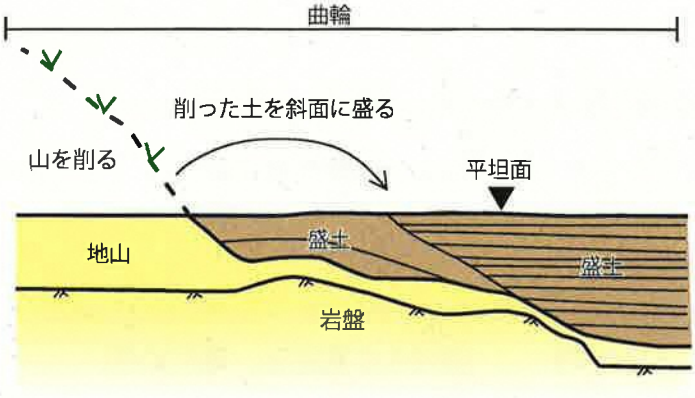


図４　曲輪の造成　模式図

図５　千畳敷曲輪　第 17-2 トレンチ 東壁
曲輪を造成するための盛土

図６　千畳敷曲輪　第 16-13 トレンチ 北から

図７　古写真（千畳敷曲輪）南から　大阪府教育委員会提供

図８　千畳敷曲輪 南から

図９　古写真（本郭Ⅱ 東側石垣）大阪府教育委員会提供

図 10　本郭Ⅱ 東側石垣

・**南丸**（第 17-6 トレンチ）　曲輪の東側、南北方向に設けられた土塁(高さ 2.2 m・基底部幅 5m以上)は岩盤を削り出してつくり、削った土で西側斜面に盛土して平坦面を広げている。

■建物について

・**千畳敷曲輪の下段の西南端**（第 16-13 トレンチ）　礎石(そせき)を２基検出。礎石の間隔は 3.0m を測る。どのような構造の建物になるかは検討中（図 6)。

・**南丸**（第 17-7 トレンチ）　焼土層の下から礎石を１基検出。焼けて固まった壁土が出土。土壁の礎石建物が建っていたと考えられる。

(2) 遺物からわかること

■居住空間について

・土器には瓦質捏ね鉢(がしつこねばち)、瓦質擂鉢(がしつすりばち)、瓦質火鉢(がしつひばち)、瓦質風炉(がしつふろ)、瀬戸美濃焼鉄釉碗(せとみのやきてつゆうわん)、中国製青磁碗(せいじわん)、中国製青花碗(せいかわん)、土師器小皿(はじき)などが出土。土器の種類・用途からすると、調理具、食膳具、燈明具など日用品や、鉄釉椀、瓦質風炉など茶の湯の道具もみられる。他には犬形土製品・銭貨(せんか)（元豊通宝(げんぽうつうほう)）、小柄(こづか)、砥石、硯、取瓶(とりべ)、壁土などバラエティーに富んだ遺物も出土。曲輪に居住空間が存在していたこと示している。

・土器は 16 世紀代のものが大半。享禄(きょうろく)年間(1528～1532)に城を築いた木沢長政(きざわながまさ)、その後に城将となった安見宗房(やすみむねふさ)、永禄(えいろく)３年(1560)に居城として入城し、永禄７年(1564)に城内で没した三好長慶(みよしながよし)、そして廃城に至る歴史が追える（飯盛城関連年表)。

3. まとめ

・**千畳敷曲輪**　大規模に土を切り盛りして造成した広大な曲輪に、建物や庭園などはみつからなかった。当時の地表面（生活面）が、昭和初期の遊園地開発工事によって痕跡を残さないほど削平され、遺構・遺物が失われた結果と考えられる(図 7)。

・**南丸**　千畳敷曲輪と対照的に、土塁をはじめとして、礎石などの遺構の残り具合が良好で、遺物を含む土層や焼土層も見つかった。

千畳敷曲輪の当時の姿をよみがえらせることは容易でない。しかし、隣接した南丸の遺構・遺物のあり方からすると、広大な曲輪に屋敷が設けられていたことは十分考えられる。多種多様な遺物から、軍事的空間でなく、居住空間として品々があふれ、庭園を眺めながら茶の湯や連歌会を楽しむ暮らしぶりがイメージできる。

飯盛城『御体塚』を掘る
―『御体塚曲輪』、石垣の調査―

四條畷市教育委員会
實盛　良彦

1．はじめに

三好長慶は、天文18（1549）年から室町幕府13代将軍足利義輝を追放して京都を支配し、畿内・四国にわたる11ヵ国を支配した戦国大名です。近年、織田信長に先駆けた天下人と評価されています。飯盛城には永禄３（1560）年に高槻の芥川山城から移りました。永禄７（1564）年に長慶は城内で没しますが、飯盛城は、永禄11（1568）年に織田信長が京都に入るまでの間、畿内政治の中心地となりました。

図１　三好長慶
（大徳寺聚光院蔵）

平成28年度と29年度に、四條畷市教育委員会・大東市教育委員会では飯盛城跡の本格的な調査に入り、大東市側の調査についてはこれまでに話があったとおりです。ここでは、四條畷市側の調査について概要を述べたいと思います。

2．御体塚曲輪の石垣調査

飯盛城内のやや北寄り、飯盛山頂上の曲輪群の中で全域が四條畷市域となる最初の曲輪が、御体塚曲輪です。この曲輪の標高は約287mで、中央やや西寄りに露岩が盛り上がるように存在します。この曲輪は、三好長慶が永禄７（1564）年に没した際、その死を秘すため仮埋葬された場所と伝えられていました。

四條畷市域では大東市域の千畳敷曲輪のように面積のある曲輪がないため、当初は石垣の構造を明らかにすることを主な目的に、平成28年度に御体塚曲輪

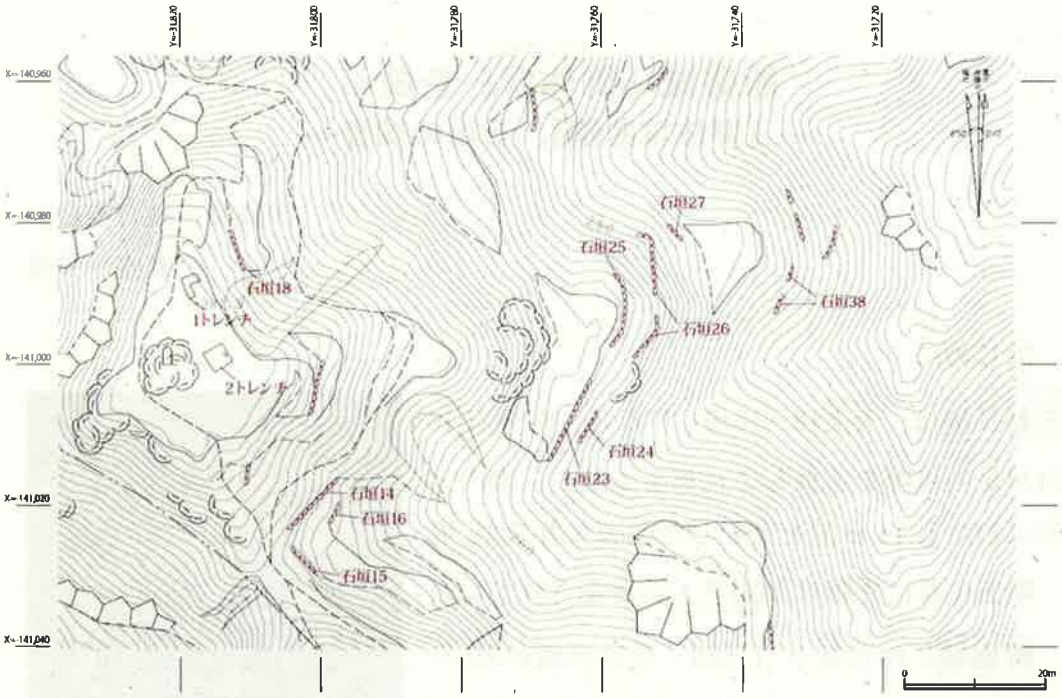


図２　平成 28・29 年度調査石垣・トレンチ位置

周辺の**石垣の調査**に入り、平成 29 年度にも残りの石垣の調査を行ないました。曲輪東側に派生する尾根を取り巻くように存在する石垣の清掃・測量を行い、ごく細いトレンチを設定して石垣の基礎の状況を調査した結果、次のようなことがわかりました。

① これまで目視で確認していた**石垣を積み上げる角度**が、測量図面を作成することにより**ほぼ垂直**に立ち上がっていることを確認した。

② 石垣前面の平地は、地形を水平に削平しているのではなく、石垣に向けて**若干の傾斜**をもった地形のままであった。

③ **石垣最下段の石**には、大半は現在見えているものが最下段であったが、もう一段もしくは数段埋まっている石垣も確認した。

④ 御体塚曲輪の東側に派生する尾根上の曲輪にある石垣（石垣 23～26）は、セットバックをしながら**３段以上の石垣**が曲輪の**前面を取り巻いて**いた。

⑤ 石垣 18 のトレンチから**瓦片**が出土していることから、その上部の**御体塚曲輪に建物**があった可能性が考えられる。

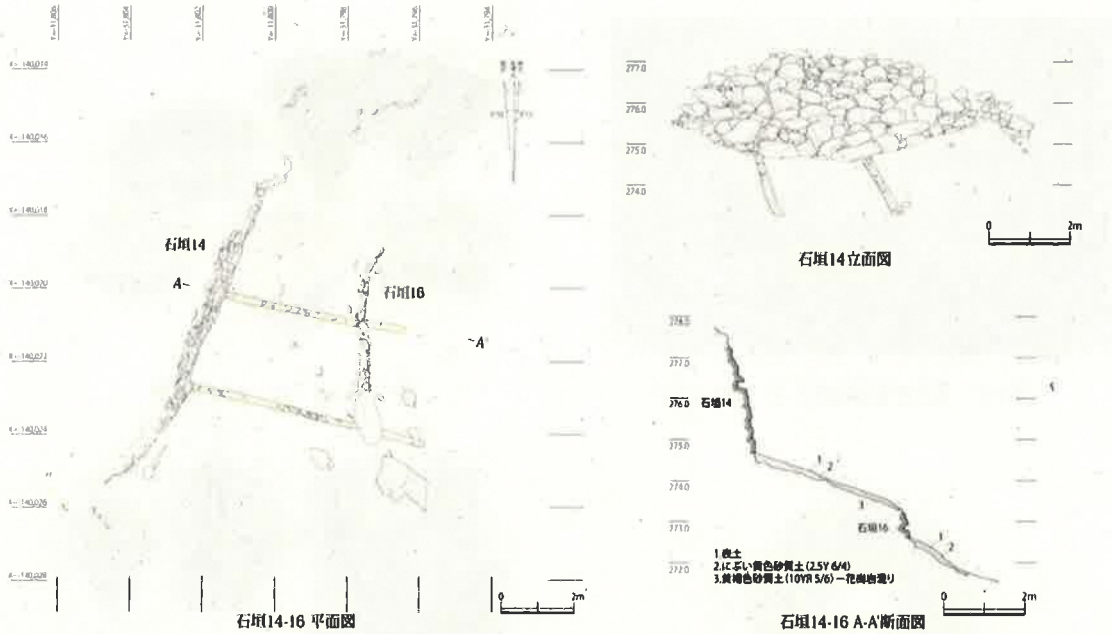


図３　石垣 14・16 測量図

図４　石垣 23・24

図５　石垣 14・15

３．御体塚曲輪の発掘調査

石垣の調査により、御体塚曲輪の上に建物が存在した可能性が出てきたことから、平成 29 年度には石垣の調査に加え御体塚曲輪の発掘調査を行ないました。

◆御体塚曲輪第１トレンチ　長さ３ｍのＬ字形

・**礎石の可能性**がある石が整地層の上に設置されているのを確認した。

◆御体塚曲輪第２トレンチ　３×３ｍ

・多くの土器とともに、**銅銭、中国製の高級磁器、建物に使われた瓦、塼（せん）（レンガ）、壁土（かべつち）、鉄釘**などがみつかった。

図６　御体塚曲輪第２トレンチ

図７　みつかった土器

図８　銅銭（皇宋通宝）

図９　瓦片

・瓦や塼から御体塚曲輪には**何らかの建物**があった可能性が高くなった。

・鉄釘は**建物**に使われた可能性と、**調度品**に使われた可能性がある。

・この時代に類例のない**台付きの灯明皿**（とうみょうざら）があり、特殊な用途が想定される。

建物の規模や性格については、今後の調査研究で明らかにしていく予定です。

４．まとめ

このように、御体塚曲輪を中心に据えて調査を継続した結果、次のようなことがわかってきました。

・御体塚曲輪の上には、**何らかの建物**があった可能性が高い。

・御体塚曲輪の付近は、東側尾根を中心とした一連の曲輪群に**幾重にも石垣**が取り巻く壮大な曲輪群であったと考えられる。

今年度も御体塚曲輪の調査を継続し、御体塚曲輪の性格を明らかにできればと考えています。

飯盛城と私部城―山城から平城へ―

交野市教育委員会　吉田知史

1　はじめに

河内国は織田の城に先行して元亀元年（1570）前後に山城から平城への移行が起きた先進的な地域と指摘される（中西 2017）。北河内の飯盛城と私部城はこの変化を考察するために重要な城。

2　私部城（交野城）の概要と飯盛城との関係

（1）私部城の概要と関連勢力

城名：私部城、交野城（戦国期の呼び方として一般的）、後家が城、白壁城など

城主：安見右近 - 新七郎→飯盛城主の安見宗房と同じ一族とみられる。

（2）歴史上の飯盛城と私部城の関係

・1542 年、対飯盛城の陣地として私部に鷹山弘頼が入る→飯盛と私部は軍事的に近接した関係。

・飯盛城は河内国の最後の拠点的山城…1570 年、三好長慶の跡をついでいた三好義継が飯盛城から中河内の平城である若江城へ拠点を移す（小谷 2017 ほか）。また守護畠山氏は高屋城に入る。これ以後、河内国で山城が拠点的城郭になることはない。

・私部城は飯盛城以後の北河内の拠点的平城…飯盛城から平城へ河内の拠点城郭が移行するなかで、北河内で拠点的な平城としてあらわれ重要になったのが安見氏の私部城（交野城）。

→私部城は、飯盛城が拠点的城郭としての役割を終える背景を考えるときに重要。

3　飯盛城から私部城へ

（1）飯盛城と私部城の比較（表 1）

共通点…瓦の利用。畿内地域では、安土城に先立ち城郭に瓦が利用される（中井 2015 ほか）。飯盛城は畿内地域でも最初期に城郭に瓦を利用した事例となる可能性があり注目される。

相違点…私部城は平地の中でも主要街道近くに立地し、先行する私部の町場に近接した位置に築かれる。交通の便がよいが飯盛に比べ小規模な城。同時期の平城は小規模と指摘されており（中西 2016）、私部城に限る現象ではない。石垣についても私部だけでなく、同時期の平城（若江城、高屋城など）にも引き継がれない。

（2）平城への変化の背景

1570 年頃の平地城郭が小規模である点については、多聞城について作事面（横堀）などから単なる縮小化ではなく「稠密・集約化」との評価がある（福島 2017）。私部城が小規模である点は、安見氏の格を示すものとも評価できる一方で、歴史上落城していない堅城であり単なる縮小化とは評価できない。次のような可能性が考えられる。

・私部の町場に近接して築城することにより、私部全体を取り込み軍事的に利用した可能性。

・鉄砲利用により小規模な城でも防衛可能だった可能性。

→永禄年間には、鉄砲の軍事利用が一般的になりつつある。安見氏には、鉄砲・砲術に関連する状況証拠が多い…①北河内の鋳物師をおさえる安見新七郎（馬部 2009）。②佐久間定栄（信盛

の息子、安見右近と義理の兄弟）が、文禄・慶長の役の時に私部で大鉄砲をつくる（小谷 2017）。③江戸時代の安見流砲術の祖「安見右近（一之）」の存在から安見氏が砲術に縁のある一族である可能性（弓倉 2017）。慶長４年（1599）とされる砲術秘伝書が残り、河内国交野郡の安見氏出身と自称する。④後世の軍記『室町殿日記』で櫓・鉄砲と堀で守る城の姿（馬部 2015）。

→畿内地域においていち早く瓦利用が進む背景として、象徴的側面のみでなく、鉄砲戦に備えたものである可能性もある。また、多量の資材を必要とする鉄砲運用のため、町場として栄えた私部を選地し築城した可能性も考えられる。

4　まとめ

飯盛城は防御性・象徴性の面で優れた山城であるが、拠点的城郭としての役割を 1570 年頃に終える。その役割を北河内では私部城が引き継ぐことになる。北河内における飯盛城から私部城への拠点的城郭の移行は、山城を中心とした戦国期から、平地城郭を中心とする近世への移行を先取るものである。

瓦利用などの面では共通項を持ちながら、私部城では既存の町場を利用しコンパクトな城郭を築く点などの変化が垣間見られた。私部城が小規模ながら堅城として機能した背景として、鉄砲利用の可能性が考えられた。今後、飯盛城の調査が進む中で、私部城との比較検討も重要になる。

引用参考文献

交野市教育委員会 2015『私部城跡発掘調査報告』、2018『平成 29 年度埋蔵文化財発掘調査概要』

小谷利明 2017「織豊期の南近畿の寺社と在地勢力」『南近畿の戦国時代』、戎光祥出版

中井均 2015「私部城と近畿の戦国期城館」『私部城跡発掘調査報告』、交野市教育委員会

中西裕樹 2016「城郭研究からみた私部城」『私部城（交野城）と北河内の地域構造』資料集、交野市他

中西裕樹 2017「山城から平城へ - 1570 年代前後の畿内と城郭」『南近畿の戦国時代』、戎光祥出版

馬部隆弘 2015「私部城（交野城）」『近畿の名城を歩く　大阪・兵庫・和歌山編』、吉川弘文館

馬部隆弘 2009「牧・交野一揆の解体と織田政権」『史敏』通巻６号

福島克彦 2017「大和多聞城研究の成果と課題」『松永久秀-歪められた戦国の“梟雄”の実像-』、宮帯出版社

弓倉弘年 2017「安見宗房と管領家畠山氏」『松永久秀-歪められた戦国の“梟雄”の実像-』、宮帯出版社

表１　飯盛城と私部城の比較

	飯盛城	私部城
町場との関係	山下に町場。	先行する私部の町場に隣接して築城される。
街　　道	山下に東高野街道・清滝街道	私部街道・山根街道に近接し、東高野街道に接続する。
規　　模	南北約 650m×東西約 400m	南北約 250m×東西約 300m
構　　造	連郭式山城	連郭式平城（求心性低い）
土 木 工 事	山頂を切り崩し、郭造成。	台地端部に堀を掘削し排土で郭を造成。飯盛に比べ小規模か。
礎 石 建 物	？	？（根石の残る柱穴（2013-2）、本郭で瓦と石が多数出土(1994-2)。）
石積み・石垣	有り。	無し。
瓦利用	御体塚曲輪で雁振瓦・丸瓦・平瓦。	本郭他で軒平・軒丸・丸・平・鬼瓦・雁振瓦他（若江城と同笵・同型。）

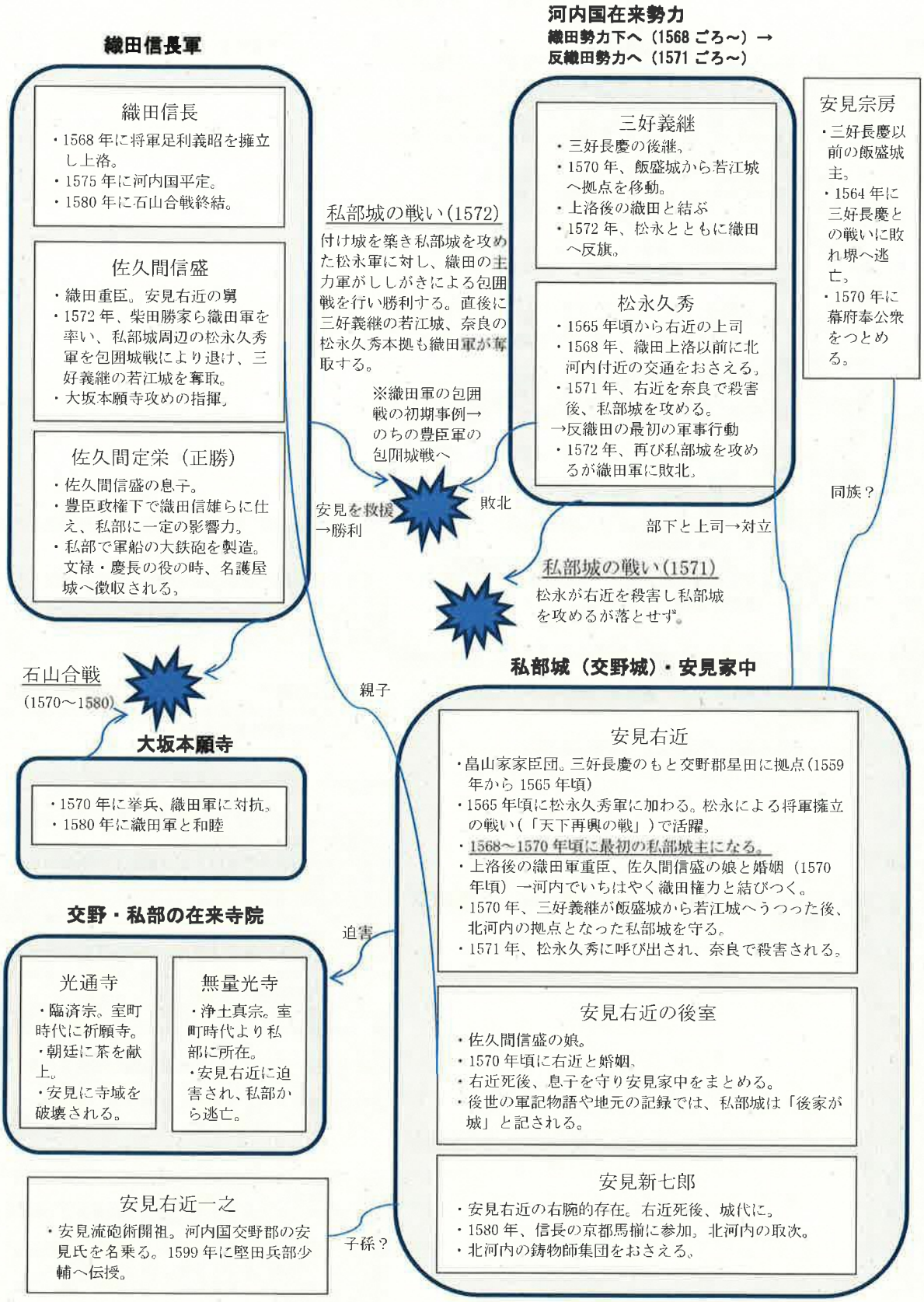


図１　私部城跡（交野城跡）をめぐる人々とできごと

表２　安見氏と私部城関連年表

年代	安見宗房と周辺	安見右近・新七郎と周辺
天文11年（1542）	7月、畠山稙長が交野の鷹山弘頼と大和の筒井順昭に、飯盛城の畠山在氏に対する警固を命じる（岡田謙一氏所蔵文書）。	
天文13年（1544）	鷹山弘頼が河内勢を率い大和国で活動（多聞院日記）。遊佐長教が山城上三郡職を鷹山弘頼・宗房に預ける（興福院文書）。	
天文15年（1546）	9月、細川氏綱の乱がおき、安見宗房は鷹山弘頼らとともに氏綱方につき出陣する（天文日記）。 12月、細川氏綱が西岡一揆を攻撃するため、鷹山弘頼・宗房に牧・交野一揆の軍事動員を依頼する（興福院文書）。	
天文20年（1551）	5月、河内国守護代であった遊佐長教が暗殺される（興福寺大般若経（良尊一筆経）奥書）。	
天文21年（1552）	2月に高屋城将の萱振賢継を飯盛城にて謀殺する（言継卿記）。 6月に河内勢の大将として畠山在氏と戦う（興福寺大般若経（良尊一筆経）奥書）。 11月に上洛し、長慶とともに将軍足利義藤を追う（言継卿	
天文22年（1553）	7月に京都で細川晴元らと戦う（言継卿記）。丹下盛知と宗房が畠山軍を率い三好長慶軍に加勢し、将軍足利義輝を近江に追いやる（言継卿記）。 同8月に安見宗房が摂津芥川城を受け取る（言継卿記）。 鷹山弘頼と対立し、高屋城で自刃に追い込む（興福院文書）。	
天文23年（1554）	宗房の子が野尻満五郎として野尻氏を継いでいる（言継卿記）。	
弘治２年（1556）	7月7日安見宗房が河内勢の大将となり大和へ侵攻する（興福寺大般若経（良尊一筆経）奥書）。	
永禄元年（1558）	宗房と畠山高政が不和になり、高政は紀伊に没落する。宗房は筒井藤勝（順慶）を養子とする（享禄天文之記）。	
永禄２年（1559）	6月、三好長慶と河内十七箇所で戦う（細川両家記）。また、畠山高政と同盟する（畠山高政判物）。 7月、三好長慶との戦いに敗れ飯盛城へ逃げる（言継卿記）。	12月に安見右近が、検断のため家来を枚方寺内に入部させる（私心記）。
永禄３年（1560）	10月、飯盛城を三好長慶へ明け渡し、畠山高政とともに堺から紀伊へ逃れる（細川両家記）。	正月に安見与助と神尾が枚方寺内の実従と対面する（私心記）。
永禄４年（1561）		枚方寺内の宗卜・松雲・与左衛門が交野の星田で安見右近と公事の交渉をする（私心記）。
永禄５年（1562）	5月、教興寺の戦いにて畠山軍が三好勢に敗北する。宗房は大坂へ逃げる（細川両家記、大館記）。	
永禄８年（1565）	宗房が遊佐氏を称しており、遊佐氏の家格を手に入れたとみられる（金剛寺文書）。	右近が畠山氏配下として大和で合戦に参加（多聞院日記）。この頃、遊佐信教から松永久秀へ右近が預けられたとみられる（遊佐信教書状）。
永禄９年（1566）	三好三人衆との戦いに大敗する（永禄九年記）。	
永禄10年（1567）		奈良市中の合戦で右近が負傷する（多聞院日記）。
永禄11年（1568）		11月に松永久秀が津田城を奪還。松永配下の安見右近が私部城を築いた可能性あり。
永禄12年（1569）		安見右近が領知する星田より日御供米が未納のため、石清水八幡宮が幕府に訴えをおこす（石清水文書）。
元亀元年（1570）	安見（遊佐）宗房が足利義昭のもと幕府奉公衆として京都で活動（言継卿記）。	三好三人衆に対抗した織田方の勢力として、「片野の安見右近」が記される（信長公記）。この頃、佐久間信盛の娘と婚姻か。
元亀２年（1571）		安見右近が松永久秀に多聞城に呼び出され切腹に追い込まれる。直後に松永久秀・久通に攻められるが持ちこたえる（言継卿記、多聞院日記）。
元亀３年（1572）		４月に松永久秀による私部城攻め。織田方の佐久間信盛・柴田勝家の援軍により松永軍を撃退する（信長公記など）。
天正３年（1575）		※織田信長の河内平定→私部城廃城の可能性あり。
天正４年（1576）		新七郎の領地である星田から日御供米がおさめられないため、石清水八幡宮が訴えをおこす（石清水文書）。
天正５年（1577）	津田宗及らの茶会で安見宗房の遺品が鑑賞される（天王寺屋会記）。	
天正６年（1578）		10月、信長が堺から京都への帰り道に「交野安見新七郎所」で休息をとる（信長公記）。
天正７年（1579）		安見新七郎が枚方の鋳物師に諸役を賦課する（真継文書）。
天正８年（1580）		右近の後室が家中を鎮めるため吉田兼和に祈祷を依頼。また、10歳になる息子がいる（兼見卿記）。
天正９年（1581）		信長の京都馬揃えに取次者である安見新七郎が召集される（立入文書）。
天正10年（1582）		私部は豊臣蔵入地とされる（出米目録）。星田が豊臣家臣の市橋長利の領地となり、石清水八幡宮に日御供米をおさめる（石清水文書）。

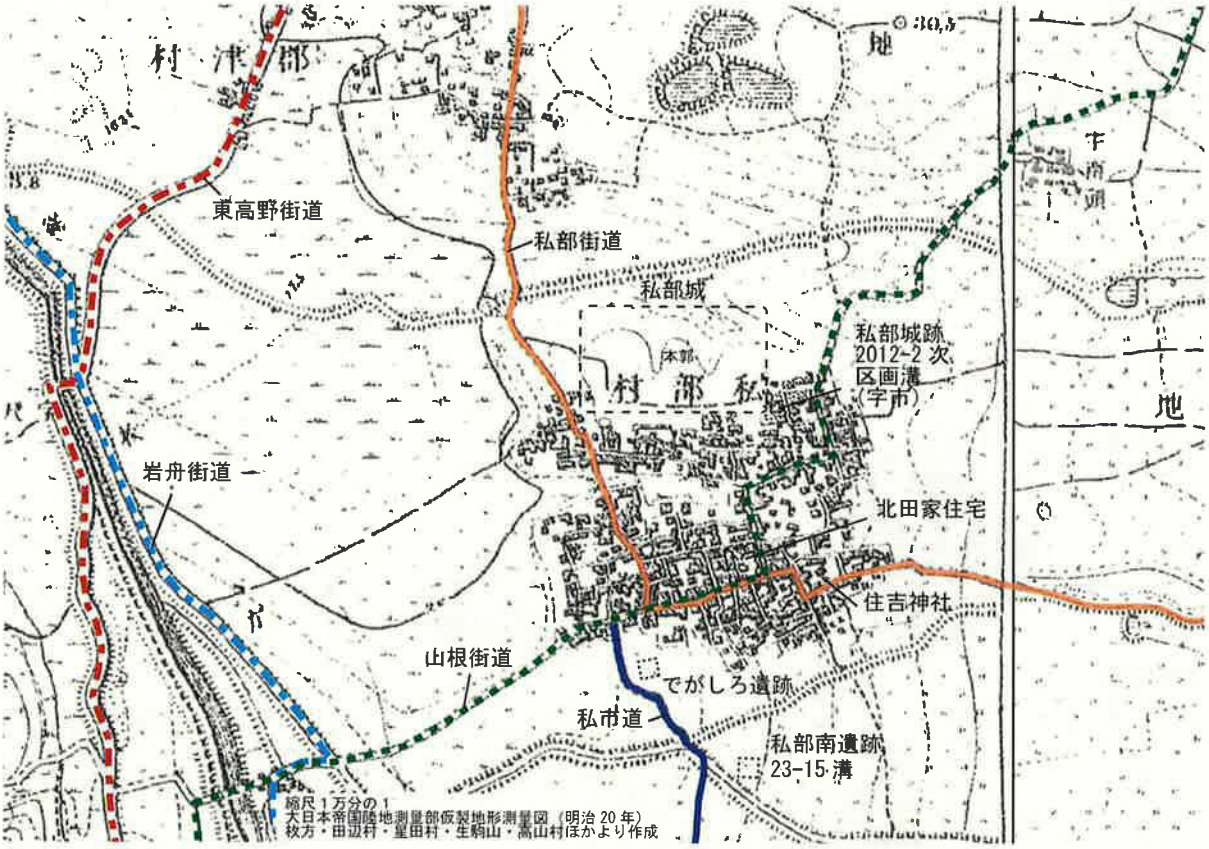


図２　私部城跡と周辺の遺跡

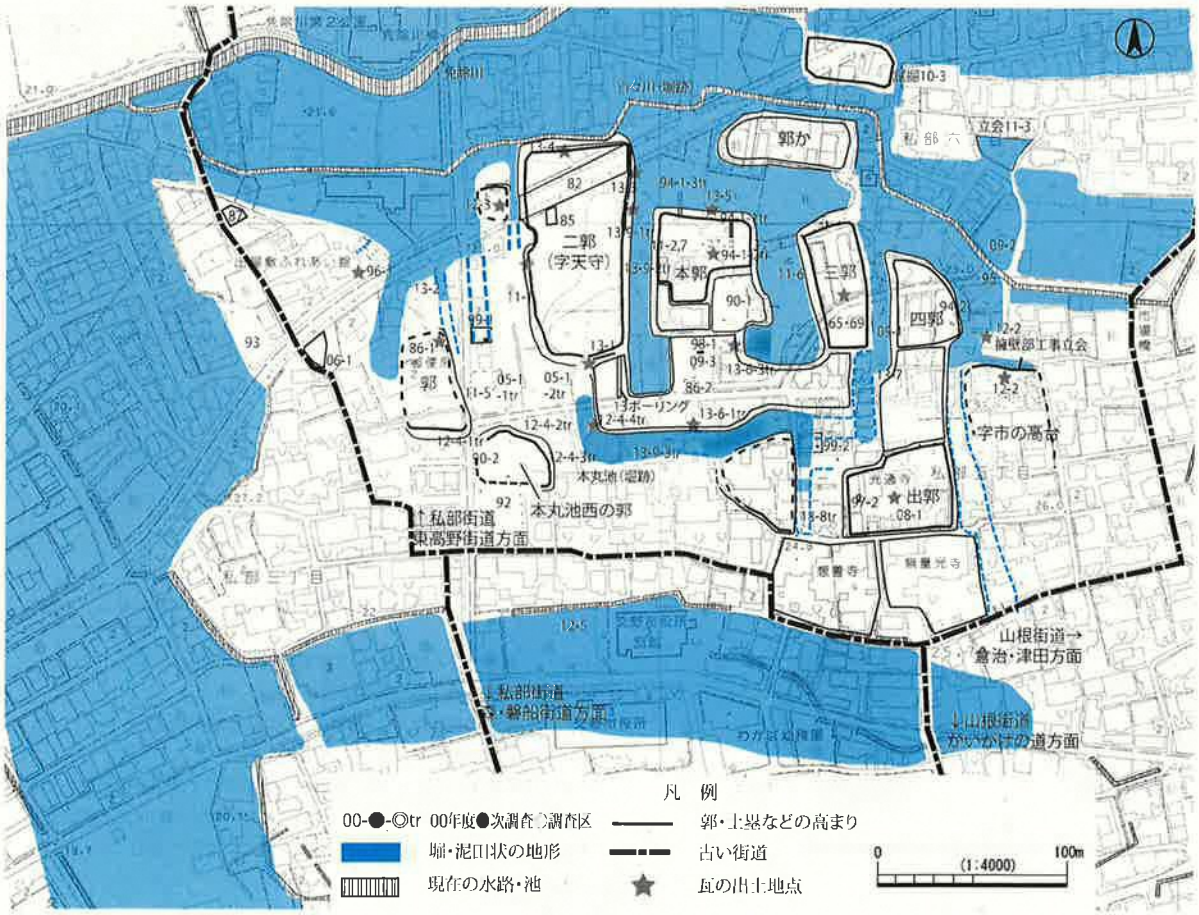
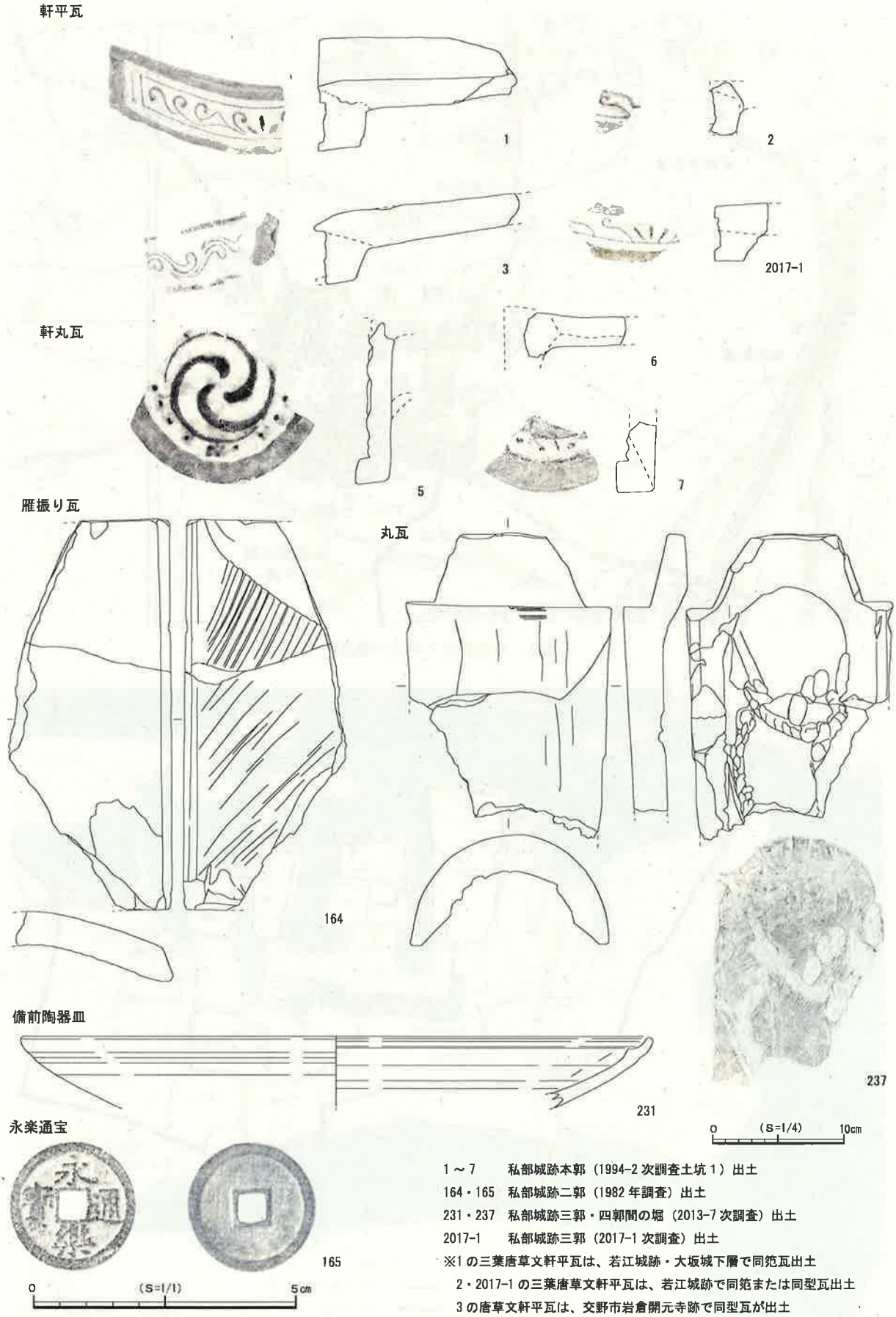


図３　私部城発掘調査合成図



1～7　私部城跡本郭（1994-2 次調査土坑 1）出土
164・165　私部城跡二郭（1982 年調査）出土
231・237　私部城跡三郭・四郭間の堀（2013-7 次調査）出土
2017-1　私部城跡三郭（2017-1 次調査）出土
※1 の三葉唐草文軒平瓦は、若江城跡・大坂城下層で同笵瓦出土
2・2017-1 の三葉唐草文軒平瓦は、若江城跡で同笵または同型瓦出土
3 の唐草文軒平瓦は、交野市岩倉開元寺跡で同型瓦が出土

図４　私部城跡発掘調査出土品

飯盛城関連年表

１５３０（享禄３）頃	細川晴元被官・木沢長政、飯盛城を居城とする。
1531・32（享禄4・5）	畠山義宣、木沢長政の飯盛城を攻撃。
１５３６（天文５）	木沢長政、飯盛城から信貴山城（奈良県平群町）にうつる。
１５３７（天文６）	木沢長政、畠山在氏を河内守護に擁立。飯盛城は守護所となる。
１５４２（天文１１）	木沢長政、遊佐・三好・本願寺と戦い、太平寺（柏原市）で敗死。ついで両軍が飯盛山麓で衝突。
１５４３（天文１２）	木沢の残党、飯盛城から大和方面に退く。
１５５１（天文２０）	安見宗房、河内守護代となり飯盛城に入城。
１５５９（永禄２）	安見宗房、高屋城に進出するが、長慶に攻められ飯盛城に退却。
１５６０（永禄３）	三好長慶、高屋城（羽曳野市）の畠山高政を破り、安見宗房を追放して河内を占領。芥川山城（高槻市）から飯盛城に入る。
１５６１（永禄４）	三好長慶、飯盛城で連歌会（飯盛千句）を催す。
１５６２（永禄５）	三好長慶、飯盛城で安見宗房や根来寺衆を迎え撃つ。
１５６４（永禄７）	宣教師ヴィレラやロレンゾ、飯盛城で三好長慶の家臣７３名を洗礼。
	三好長慶、飯盛城で弟の安宅冬康を殺害。
	三好長慶、飯盛城で死去。養子の義継が家督を継ぐ。
１５６５（永禄８）	宣教師ルイス・フロイス、飯盛城を来訪。
	三好義継、飯盛城から高屋城にうつる。
１５６７（永禄１０）	飯盛城、三好義継に対抗する三好三人衆の手にわたる。
１５６８（永禄１１）	三好義継、将軍足利義昭から飯盛城を安堵される。
１５６９（永禄１２）	三好義継、飯盛城から若江城（東大阪市）にうつる。
１５７４（天正２）	飯盛城下で、明智光秀・佐久間信盛らの軍勢と三好の残党が衝突。
１５７５（天正３）	織田信長、河内国内の城郭を破却。飯盛城廃城。

■用語解説

【城郭の施設】

曲輪：城郭における基本的な居場所。多くの場合内部を平坦化して、周囲に対しては防御施設によって守る。

帯曲輪・腰曲輪：この２つの言葉は厳密な意味での使い分けはないが、基本的に曲輪斜面にこれを囲うように長く設けられたものを帯曲輪、短くポイントに設置されたものを腰曲輪という。

塁線：土塁・切岸によって城域を遮断するラインのこと。

石塁：一般的には石垣のこと、但し内外面を石垣で構築した仕切り土手のことを呼んでいる。

【防御のための施設】

切岸：曲輪斜面を防御するために人工的に加工を施した斜面を言う。

土塁：曲輪の縁辺部に土盛をして防御壁とした施設のこと。

掘切：尾根筋を分断する堀を言う。山の弱点となる尾根伝いに侵入する敵を防ぐために設けたもの。

竪堀：丘城・山城などの斜面に設けられた空堀で、等高線に対して直角に掘られた堀。

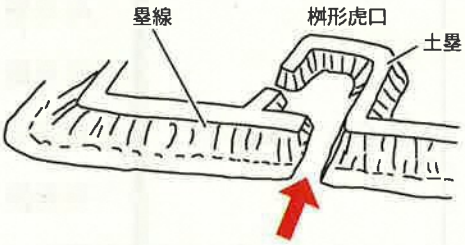
横堀：山城で曲輪の側面（斜面側）にも巡る堀のこと。発達したものでは城全体を囲み、城域を区画するものもある。

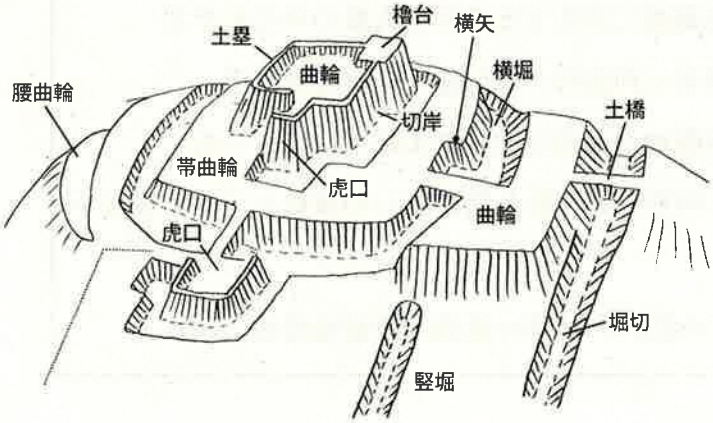
虎口：城の出入口とこれを守るための施設のこと。城では出入口を攻められることが弱点となるので、虎口と称して厳重に守った。虎口は単に出入口の門のみをいうのではなく、出入り口の周囲の施設も含めて呼ぶことがある。

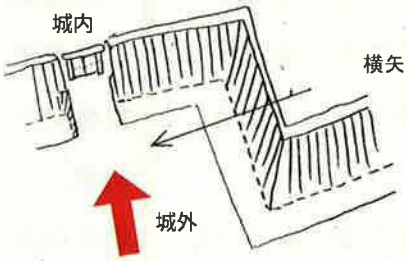
喰い違い虎口：守るための様々な工夫のうち、出入りする口を左右互い違いにしたもの。これによって城門の前で出っ張った側からの側射が可能になる。

枡形虎口：城の虎口の一種。城の出入口を二重の門と間に空間をもつことで守る虎口。２つの門の間の空間が四角い形 をしていたことから枡形と呼んだ。

横矢：城内に侵入する敵に対して、側面から攻撃することを可能にした守るための施設。図のように、虎口側面の曲輪を張り出せば、虎口に向かう敵を側面から攻撃できます。







【石垣】

穴太積み：城郭石垣に用いられた石垣技法、もしくはその技術のこと。

野面積み：自然石のみで積まれた石垣。

打ち込みハギ（接）：粗割した石材を積んだ石垣。

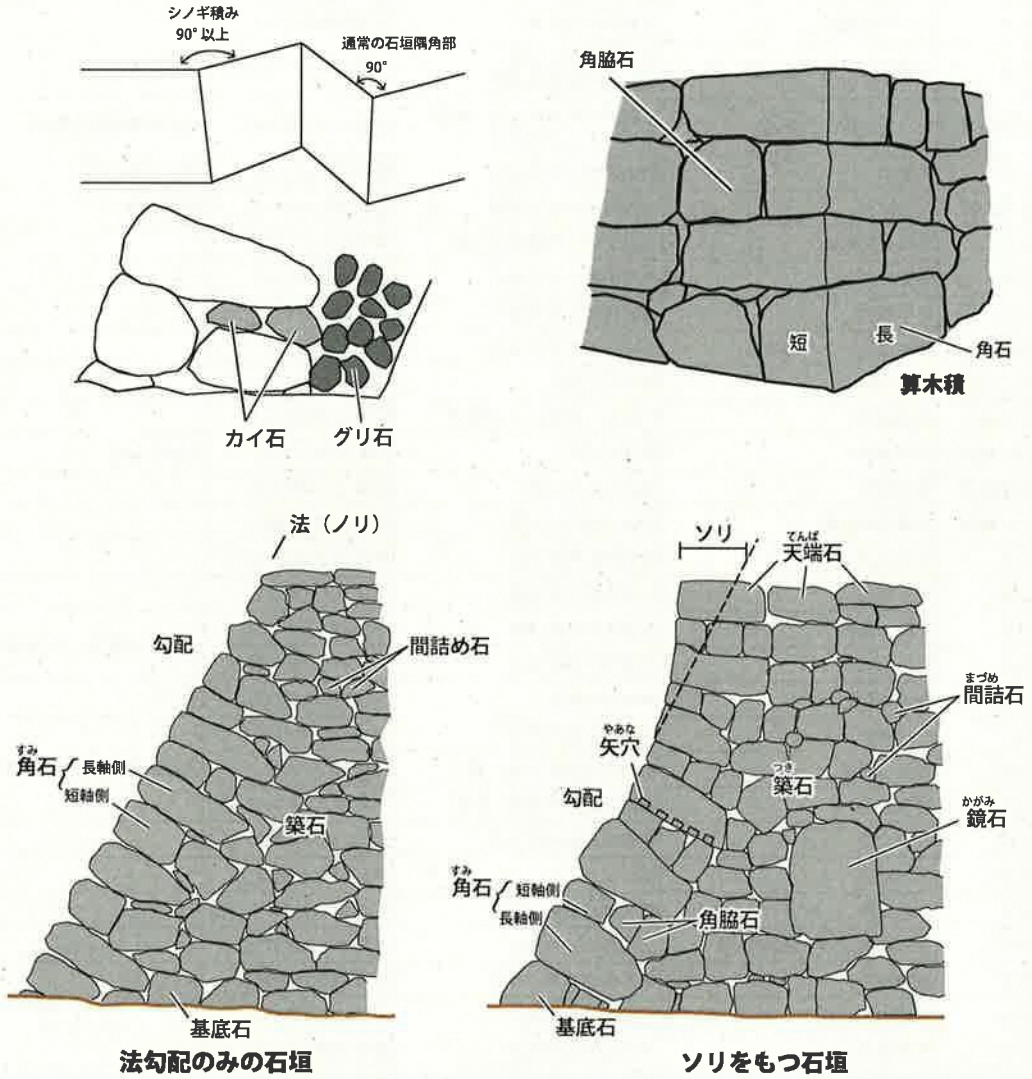
算木積み：城郭石垣の隅角部の技法。長方形の石材の長辺を交互に積み上げるもので、隅角部の強度を維持することに有効であった。

シノギ積み：石垣の隅角部が直角ではなく鈍角になる積み方。この積み方では算木積みが乱れることが多い。

鏡石：石垣を見せるために、意図的に積んだ大きな石材。

法（法勾配）：石垣の角度のこと。

矢穴：石材を矢で割る際に人工的に掘られた穴の痕跡。割石では穴の片方のみが残る。



石垣隅角部

特別展『兵庫山城探訪』展示図録 2018　兵庫県立考古博物館提供、一部加筆・転載

国指定史跡　近畿地方の城郭

府県	種別	名称	所在地	指定年月日	備考
滋賀県	近世城郭	彦根城跡	彦根市金亀町・尾末町・城町	昭和26年6月9日	特別史跡
	山城	安土城跡	近江八幡市安土町下豊浦	大正15年10月20日	特別史跡
	山城	鎌刃城跡	米原市番場	平成17年3月2日	
	山城	観音寺城跡	近江八幡市、東近江市	昭和57年1月30日	
	山城	小谷城跡	東浅井郡湖北町、長浜市	昭和12年4月17日	
	山城	清水山城館跡	高島郡新旭町熊野本・安井川	平成16年2月27日	
	居館	京極氏城館跡	米原市弥高	平成16年2月27日	京極氏遺跡
	丘城	寺前城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	甲賀郡中惣遺跡群として一括指定
	丘城	村雨城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	新宮城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	新宮支城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	竹中城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	居館	下坂氏館跡	長浜市下坂中町	平成18年1月26日	北近江城館跡群として一括指定
	居館	三田村氏館跡	長浜市三田町	平成18年1月26日	
	山城	水口岡山城跡	甲賀市水口町水口	平成29年2月9日	
	山城	玄蕃尾城（内中尾山城）跡	福井県敦賀市刀根 滋賀県伊香郡余呉町	平成11年7月13日	福井県へも広がる
京都府	近世城郭	旧二条離宮（二条城）	京都府京都市中京区二条通 堀川西入ル二条城町	昭和14年11月30日	指定対象は離宮庭園
	山城	笠置山	相楽郡笠置町笠置山	昭和7年4月19日	指定対象は寺院
大阪府	近世城郭	大坂城跡	大阪市中央区大坂城	昭和28年3月31日	特別史跡
	山城	烏帽子形城跡	大阪府河内長野市喜多町	平成24年1月24日	
	山城	赤阪城跡	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
	山城	千早城跡	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
	山城	楠木城跡（上赤阪城跡）	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
兵庫県	近世城郭	篠山城跡	篠山市北新町	昭和31年12月28日	
	近世城郭	赤穂城跡	赤穂市上仮屋・上仮屋南	昭和46年3月31日	
	近世城郭	姫路城跡	姫路市本町	昭和3年9月20日	特別史跡
	近世城郭	明石城跡	明石市明石公園	平成16年9月30日	
	近世城郭	柏原藩陣屋跡	丹波市柏原町柏原	昭和46年1月6日	
	山城	利神城跡	佐用郡佐用町平福	平成29年10月13日	
	山城	黒井城跡	丹波市春日町黒井	平成元年8月11日	
	山城	此隅山城跡	豊岡市出石町宮内	平成8年11月13日	山名氏城跡として一括指定
	山城	有子山城跡	豊岡市出石町内町	平成8年11月13日	
	山城	洲本城跡	洲本市小路谷	平成11年1月14日	
	山城	白旗城跡	赤穂郡上郡町大富	平成8年3月28日	赤松氏城跡として一括指定
	山城	感状山城跡	相生市矢野町瓜生・森	平成8年3月28日	
	山城	置塩城跡	姫路市夢前町宮置・糸田	平成10年1月30日	
	山城	竹田城跡	朝来市和田山町竹田	昭和18年9月8日	
	山城	八上城跡	篠山市八上上	平成17年3月2日	
	山城	八木城跡	養父市八鹿町八木	平成9年3月6日	
	平城	三木城跡及び付城跡・土塁	三木市上ノ丸町	平成25年3月27日	
	平城	有岡城跡	伊丹市宮ノ前・伊丹	昭和54年12月28日	
奈良県	山城	宇陀松山城跡	宇陀市大宇陀春日	平成18年7月28日	
	山城	高取城跡	高市郡高取町高取	昭和28年3月31日	
和歌山県	近世城郭	和歌山城	和歌山市一番丁	昭和6年3月30日	

特別展『兵庫山城探訪』展示図録 2018　兵庫県立考古博物館提供、一部加筆・転載